

会報【第51号】

NPO法人
コミュニティ時津
COMMUNITY TOGITU

平成29年1月発行

活動報告(平成28年10月～12月)

内 容

- ✚ 新年のごあいさつ
- ✚ カンボジア支援
～11月29日から12月5日まで支援訪問、現地視察と支援品を届ける～
～2016カンボジア紀行 活動を通しての感想と反省～
- ✚ パソコン教室(「やさしいパソコン教室」)
～10月6日スタート、11月24日終了。総合福祉センターロビーで卒業作品展を開催～
- ✚ 時津港のごみ拾いは 雨天中止
- ✚ 寄稿記事 しもむらクリニック院長 下村 千枝子 氏
～地域カフェ トキ(仮称)を、時津町浦郷に開店します～
～高齢者の医療・介護費と子どもの貧困率を考える～
- ✚ 協働事業 土曜学習教室(とぎつサタデールーム)
 - ・第6回 ～スポーツの秋にちなみ「長崎発祥のスポーツ」を学ぶ～
 - ・第7回 ～「日本と外国の文化」と紙芝居で「見方、考え方の違い」を学ぶ～
 - ・第8回 ～英語で歌うクリスマスソングとクリスマスリースづくり～
- ✚ 当面の予定
 - ◎ シニア パソコン教室事業「アミーゴ サロン」の開設について
 - ◎ 時津港沿岸(ウォーターフロント公園周辺)のごみ拾い 3月25日(土)実施
- ✚ ホームページ掲載記事
 - ◎ ホームページ 18件 ブログ 14件(10月～12月)

★新年のごあいさつ



あけましておめでとうございます。

昨年のお世相を表す漢字は、15万票超の応募の中から6,655票(4.3%)を集めた「金」が選ばれました。リオオリンピックの感動や東京都の政治資金、築地市場の豊洲移転、東京オリンピックの巨額経費、シンガーソングライター「ピコ太郎」の金色衣装などを反映してのものとされています。第4位は「震」、地震大国日本で起こった熊本大地震や鳥取地震等々。被災者は、未だに余震に悩まされ、眠れぬ夜を過ごしているそうです。また、想定外の大型台風や豪雨など強大化する自然災害に、どう対処すればいいのかが問われた1年でした。

自然災害強大化の原因が、地球温暖化にあるのは疑う余地がないというのが、通説になっています。環境省は、地球温暖化防止のための国民運動「COOL CHOICE(クールチョイス=賢い選択)」を展開しています。この運動は「身近な生活のなかで、未来のために、いま選択できる省エネ・

低炭素型のアクションを選ぶ」というものです。これに賛同する個人又は団体が参加できますが、当法人は団体として参加登録をし、これまでの活動を活性化していきます。

もう一つは、団塊の世代が後期高齢者になる 2025 年問題です。10 年後には 65 歳以上 74 歳までの前期高齢者を含めると 3 人に 1 人が高齢者で、10 人に 1 人は認知症をかかえ、介護・医療費等、社会保障費の急増が懸念されています。この状況を緩和させるために、健康で長生きする社会の構築が、喫緊の課題であるとされています。この問題に取り組んでおられる当法人の S 会員が、本紙の寄稿欄で事の重大さを訴え、対策を具現化しています。当法人としては、これを全面的にバックアップするとともに、次年度の 4 月から、時津町社会福祉協議会と共催で、シニアパソコン教室事業「アミーゴサロン」を立ち上げます。パソコンを一つのツールとして集い、考え談話するふれあいの場に顔を出し、楽しく生きがいのある生活を送ることを目的とします。60 歳以上が対象になります。お気軽にお立ち寄りください。

今年酉（鳥）年、大きく羽ばたき飛躍の年にしたいと思っています。旧年同様のご支援、ご協力とご指導、ご鞭撻のほどを切にお願いして、新年のごあいさつとさせていただきます。

（理事長 田窪 幸男）

活動の詳細

★ カンボジア支援

～11月29日から12月5日まで支援訪問、現地視察と支援品を届ける～



「カンボジアの恵まれない子どもたちへの支援活動」の一環として、友岡 純一 副理事長と太田 千賀子 理事（事務局長）が、カンボジアを訪問し、皆さんから預かった支援物資を手渡したり、これまでに支援並びに贈呈した設備の使用状況を確認、点検整備を行ったりしてきました。

11月29日（火）から12月5日（月）までの訪問でしたが、今後の支援方針を模索するなど有意義な訪問でした。

以下、両理事の紀行文を紹介します。

～2016 カンボジア紀行 活動を通しての感想と反省～

2016 カンボジア支援の旅は、コミュニティ時津から 2 人（友岡、太田）が参加。現地では NPO 法人「テラ・ルネッサンス」（以下 テラという）の駐在員 江角 氏やノリア孤児院の岩田 氏などの協力を得て、支障なく活動ができた。

1日目（11月29日）

早朝に長崎を出発。福岡空港発バンコクを経由して、カンボジアのアンコールワットのあるシェムリアップに到着。その日はシェムリアップ泊。

2日目（11月30日）

車で 3 時間かけてバタンバンへ。右も左も地平線しか見えない直線道路が数キロも続く。ノリア孤児院がオープンしたカフェ「H.O.C」で昼食を取る。朝 8 時から営業しており、朝食・昼食時は、欧米人の旅行者や近隣在住の日本人で、ほとんどのテーブルが埋まるほどの繁盛ぶりだった。ここでは孤児院出身の子ども（もう大人）が、5 人働いている。開店 2 年目で採算ベースに乗ったようだ。昼食を済ませ孤児院に行き子どもたちと会う。現在 25 人が在籍し、DV 避難の

子もいた。ここでは支援品の井戸ポンプと送水パイプを使って、オクラやナス、または水耕栽培のレタスなどが栽培されていた。



水耕栽培（レタス）設備

孤児院のスタッフは「先日、2歳の子の具合が悪くなり、シエムリアップの子ども病院に連れて行った。前日の朝に出発し、朝4時から病院の前に並び、診てもらったのは夕方。この病院は、無料なため、全国から毎日、数百人の子どもが来る。現在、日本の乳幼児死亡率は、1000人に2～3人であるが、カンボジアでは1000人に120人になる」という話をされた。医療制度、医療施設の充実が急務ではないかと感じた。

3日目（12月1日）

テラのスタッフとともに終日活動。車2台に分乗して宿を出発し、支援物資を購入。カムリエン州ロカブス村に向かう途中で、診療所に立ち寄り、今回預かったタオル300枚や石けん、医薬品、介護研修生の制服（3着）などを贈った。この診療所には以前、ソーラー発電を設置していたので、その使用状況を確認したが、大事に使い順調に稼働していた。診療所には、ちょうど本日が出産予定の若い夫婦が待っていた。元気な赤ちゃんが生まれることを願って診療所を後にした。



診療所のソーラーパネル

それからロカブス村へ。ここでは支援した灌漑（かんがい）設備を使って野菜の栽培を行っている。子どもたちにフランスパンとキャンディ、日本から送った文具品を手渡し、教会のミーティングに参加した。灌漑設備のおかげで野菜ができるようになり、あるご婦人は、畑で採れたトマト、ナス、ヘチマなどを袋詰めにして売り、1日5～7ドルの収入を得ている。しかし昨年、勢いよく汲み上げていたポンプが不調。ホースも水漏れの恐れがあるなどの話があり、ソーラーで動く揚水ポンプ2セットとホースなどの備品を贈った。テラのスタッフは、村人に野菜の種を配り、栽培の指導をしていた。



野菜を売る婦人

4日目（12月2日）

プレアプット村へ行く。国境のある村で、この村の人々は隣国タイへ検問も通関もなく往来している。

新しくできた24世帯の村に立ち寄る。テラの職員が、地雷撤去が終了した小山のすそ野で、子どもたちのための学校・幼稚園を造り、教師は近くの村から派遣してもらっていた。小さな小学校を訪問し、授業を見学した後、子どもたちに鉛筆、ノート、あめ、パンを配る。次回訪問時には、この学校にソーラー発電装置を贈る予定。



寺小屋風の小学校

大人たちには農業を指導し、既に幾つかの作物が芽吹き、自給をしたり売ったりしていた。また、雨季の間、溜（た）まった水を年中使えるように、溜め池造りをしていた。

次に地雷の犠牲者宅を訪問。訪問団は毎回、100 粍（犠牲者5家族分）の米を贈ってきたが、今回もフランスパンと一緒に差し上げた。地雷は深刻な問題で、今でもカンボジア国内では年間150～160件の事故が起こっているようだ。



パンを喜ぶ 子たぐさんの家族
したが、この日は都合で休校。

プレアプット小学校では、支援品を直接子どもに手渡す予定だったが、子どもに会えず、後日のお届けをテラのスタッフにお願いした。

5日目 (12月3日)

午前9時にホテルをチェックアウト。町でノリア孤児院への支援品(米・洗剤類)を調達して、11時ごろ孤児院を訪問し、支援品を届けた。午後2時から夕方まで、3時間半かけてシェムリアップに移動した。

6日目 (12月4日)



「礎の石孤児院」の子どもたち

シェムリアップ空港から首都プノンペンへ。1999年(平成11年)から毎年訪問している「礎の石孤児院」を訪問。ここでは現在、子ども23人が暮らしている。今回は日曜日で子どもたちとも交流。大学進学や就職など順調に成長している旨の報告をいただいた。子どもたちが、自立できるようにとのしっかりしたプランがあって、フォローもしっかりしていて頭が下がる思いである。支援品として米、砂糖、塩、油、ニンニクを贈った。ここで支援訪問の活動予定をすべて終わり、バンコクへ向かう。

7日目 (12月5日)

午前1時(現地時間)にバンコクを発って、午前8時(日本時間)に福岡空港に着いた。ちなみに、カンボジア(タイ)と日本の時差は2時間。

今回の支援訪問で感じたカンボジアの実情は、電柱、電線の敷設が進み、以前と比べ各家庭で電気が使われるようになってきているが、電気をタイから購入しているらしく、高額な電気代を払っている。あらためてソーラー発電による電気の供給が見直されている向きもある。



この子らに光を・・・

水の供給については、インフラが未整備でまだまだ時間が掛かりそう。支援訪問を始めた10年前に比べれば、生活もやや改善され、学校の環境整備も進んでいる。

2つの孤児院の子どもたちに再会して、彼らの成長に応じた別の課題への支援も含め、今後も見守っていきたい。

(友岡 純一・太田 千賀子)

★ 「やさしいパソコン教室」

～10月6日スタート、11月24日終了。総合福祉センターロビーで卒業作品展を開催中～



時津町社会福祉協議会(会長平瀬 研氏)から当法人への委託事業「やさしいパソコン教室」には、60歳代が8人、70歳代が5人、80歳代が2人、総数15人(うち女性2人)が参加し、ノート型パソコン持参で「ワードの基礎から年賀状づくり」

にチャレンジしました。

今回の講座の特長は、女性の受講者が少なかったことと、高齢の初心者が多かったことです。卒業作品として各人2枚を提出し、今年で12回(年)目のパソコン教室を終了しました。

卒業作品は、時津町総合福祉センターのロビーに、1月いっぱい展示されるので、皆さんの努力の跡が見られます。ぜひ、足を運んで鑑賞してください。

★ 「時津港のごみ拾い」は 雨天中止

10月22日に予定していた「時津港沿岸のごみ拾い」は、前日の午後4時ごろに雨天中止を決定して、参加を予定されていた企業・団体の方に連絡しました。

実施予定日に数人の方が、中止を知らずに集合場所に来られました。連絡が行き届かずに申し訳ございませんでした。

次回もよろしくお願いいたします。

寄稿記事

～地域カフェ トキ（仮称）を、時津町浦郷に開店します～

しもむらクリニック院長 下村 千枝子

2025年、団塊の世代が75歳以上の高齢者となり、医療・福祉の需要が急激に増えることとさらに少子化・こどもの貧困問題も、同時に起こっていることを前号で報告しました、

ひとり親や共働き家庭の子どもたちに、無料または安価で食事を提供する「こども食堂」が広がりつつあります。こども食堂は、食事の提供だけでなく、学習指導なども無料で行っており、安心して自由に入出りできる居場所となっています。

「NPO法人 らいぶながさき」でも、1月21日（土曜日）より「地域カフェ トキ（仮称）」を始めます。カフェとは、本来飲食できる場所を意味します。手づくりのカレーを食べてもらい、ゆったりとした気分になったところで、もし医療・介護・福祉にかかわる相談があれば、専門職（医師・看護師・薬剤師・栄養士・介護支援専門員）が相談に応じるカフェです。食をきっかけに、地域や行政などへつなげる橋渡しの役目やふらっと来て人に会える、居場所づくりを目的としています。利用者は、子どもさんから高齢者まで、どなたでも利用可能です。月1回第3土曜日の開催で、カレーは無料で提供します。



地域カフェは白いビルの3FLで開店
(浦郷インド料理タージ隣)

ボランティア活動ですので、手伝ってくださる方、食材を提供くださる方、大歓迎です。時津に、小さな種をまいてみましたので、皆さんで育てましょう。

「地域カフェ トキ」は仮称です。現在、店名を募集中です。

～高齢者の医療・介護費と子どもの貧困率を考える～

しもむらクリニック院長 下村 千枝子

日本は、何も資源のない、人材のみが資源の国です。明治維新を乗り越えられたのも、江戸時代から子どもに読み書き・そろばんを教え、識字率が高かったからといわれています。2025年に向かって高齢化の不安もありますが、高齢者同士が助け合い、検診を積極的に受けるなどの自助努力で、高齢者の医療・介護費を節約しながら（子どもは社会が育てると意識の基）インフルエンザなどの予防接種の無料化、病気の子どもの預けられる病児保育の拡充、奨学金の充実など、若い世代への支援をしなければ、日本の将来不安は解決しないと思います。



相対的貧困というのは、「社会の標準的な所得の半分以下の所得しかない世帯」のことです。2人世帯であれば177万円、3人世帯で217万円、4人世帯で250万円を下回る世帯です。子どもの相対的貧困率

15.7%、実数にして約232万人、特に大人が1人の世帯の相対的貧困率が50.8%と、大人が2



人以上いる世帯に比べて非常に高い水準となっています。貧困に陥る子どもが急速に増えていますが、1990年代に入ってから、子どもの貧困率は大きく上昇していて、その上昇率は他のどの年齢層よりも高くなっています。理由は分かりませんが、国の社会保障制度からの給付が高齢者に極端に偏っていることと無関係ではないと考えられています。当院でも、薬代が高いので、勝手に薬を中止し痙攣（けいれん）発作が起こり、救急車で運ばれた母子家庭の例など、経済的な負担で医療が制限された方がいます。子どもさんを抱えながら働いている若い親は、祖父母の物心両面の支援がない場合、大変と思います。特に

母子世帯の約8割の母親は、働いていますが、貧困状態で、社会的支援が不十分です。小さい子どもがいる母親は、子どもが病気するとすぐ休むといわれ、正規の就労を拒まれる例もあります。このような家庭で、十分に養育や教育ができなければ、子どもたちもまた貧困状態となる負の連鎖が起こります。

協働事業

★ 土曜学習教室（とぎつサタデールーム）

第6回 ～スポーツの秋にちなみ「長崎発祥のスポーツ」を学ぶ～

10月8日（土）、児童40人（欠席24人）と世話役のスタッフ15人（うち大学生12人）が参加し、時津公民館別館で「フランスの生活と英語の学習」及び「スポーツの秋にちなみ 長崎発祥のスポーツを学ぶ」をテーマに開催しました。



前半（9:10～10:20）は、フランスに留学していた長崎外国

語大学生が、フランスの地理や食生活、フランス発祥のスポーツなどについて話をしました。英語の学習は、競技の英語名を学んで簡単な英会話の勉強をしました。

後半（10:30～11:45）は、長崎発祥のスポーツの紹介を太田スタッフが行った後に、3つの競技（バドミントン、ボウリング、けん玉）を体験しました。

ただし、屋外で行う予定のバドミントンは、外に出て遊び始めたところで、激しい雨に見舞われ中止にしました。

第7回 ～「日本と外国の文化」と紙芝居で「見方、考え方の違い」を学ぶ～

11月12日（土）、児童47人（欠席17人）と世話役のスタッフ14人（うち大学生11人）が参加し、時津公民館別館で開催しました。



前半（9:10～10:35）は、文化の日にちなみ「日本と外国の文化を学ぶ」をテーマに、イギリス・フランス・

中国の紹介を、イギリスに留学経験のある外国語大学生とフランスからの留学生（1人）、中国からの留学生（2人）が行いました。続いて時津の方言をクイズ形式で学び、英語での言い方を学習しました。

後半（10:45～12:00）は、3つのパターンの紙芝居を子どもたちの6つのグループに配布し、それぞれのグループが、思い思いの順番に絵を並べて、ストーリーを考え説明を付けて発表しました。子どもたちの発表後には、長

大の大学生スタッフが、3つの紙芝居の原作を紹介しました。この学習で、子どもたちは、物

の見方、考え方によって、いろいろなとらえ方があることを学びました。

第8回 ～英語で歌うクリスマスソングとクリスマスリースづくり～

12月10日(土)、児童47人(欠席17人)と世話役のスタッフ11人(うち大学生8人)が参加し、時津公民館別館で開催しました。今回はクリスマスバージョンを楽しみました。



前半(9:20～10:15)は、日本でもよく知られているクリスマス

の歌(「We wish you a Merry Christmas」)の歌詞(英語)カードを配布し、大学生スタッフが、1節ごとに日本語に訳して解説しました。その後、子どもは、大学生のスマホから流れる

歌を聴き、みんなで一緒に繰り返し歌って覚えました。また、フランスからの留学生がフランスのクリスマスについて、イギリス留学の経験者がイギリスのクリスマスについての話をしました。

後半(10:45～12:00)は、クリスマスリースづくりです。大学生スタッフが作り方を説明し、予め準備した材料(赤や緑の布、毛糸、ストロー、どんぐりの実、松ぼっくり、作り物のイチゴやリンゴなど)で、思い思いのリースを作りました。予備知識もないまま白紙の状態から、作り方を聞いて短い時間で、個性ある作品を完成させる子どもたちの発想力・創造力と集中力に感服しました。

当面の予定

◎ シニア パソコン教室事業「アミーゴ サロン」の開設について

時津町社会福祉協議会とNPO法人コミュニティ時津の共催で、4月第3火曜日に開設予定の60歳以上を対象の「アミーゴ サロン」の準備を進めています。2月中旬の町内回覧で、参加者募集を行います。概要は次の通りです。

2025年問題対策の一つとしての位置付けで、出歩く機会や人に接することが少なくなった定年退職などの離職者が、パソコンを一つのツールとして集い、考え談話するふれあいの場に顔を出し、楽しく生きがいのある生活を送ることを目的とします。

サロンでは、取り組むテーマや目標は定めず「よろず相談室」的な運営をします。具体的には、参加者の質問に答えたり、資料作りの手助け(アドバイス)をしたり、パソコンで行き詰まっている原因を一緒に考え、解決したりします。

年間10回、毎月第3火曜日の午前中(2時間)に開催します。会員制とし年会費(参加費)2,000円を徴収します。10回全て出席が条件ではありませんので、都合のいいときに参加してください。その他、詳細については、参加者募集のチラシでご確認ください。社協からの委託事業「やさしいパソコン教室」は、従来通り10月～11月に開催します。



◎ 時津港沿岸(ウォーターフロント公園周辺)のごみ拾い 3月25日(土)実施

今年度最後の行事、「時津港沿岸(ウォーターフロント公園周辺)のごみ拾い」は、3月25日(土)に実施します。多くの方のご参加をお待ちしています。




★ ホームページ掲載記事リスト (10月～12月 ホームページ 18件 ブログ 14件)

活動報告や町の話などを発信しています。

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1. 2016 カンボジア支援訪問 | 10. 第10回ボランティアまつり (総合福祉センター) |
| 2. 第8回とぎつサタデールーム (12/10) | 11. カナリーホール「蔵出し展」 |
| 3. 生涯学習を考えるつどい・少年の主張大会 | 12. カナリーホールイベント情報 (11月・12月) |
| 4. カナリーホールイベント情報 (12月・1月) | 13. 講演会 (11/13)「医療と介護のお話し」 |
| 5. 「防災体験学習」(時津町元村一自治会) | 14. 第45回時津町文化祭の案内 |
| 6. 「やさしいパソコン教室」終わる (社協委託) | 15. 第6回とぎつサタデールーム (10/8) |
| 7. 第7回とぎつサタデールーム (11/12) | 16. 平成28年 町民体育祭 (10/2) |
| 8. 第45回時津町文化祭2016 総集編 | 17. 会報50号 (コミュニティ時津) |
| 9. カナリーインフォメーション2016 No.2 | 18. カナリーホールイベント情報 (10月・11月) |

ホームページアドレス : <http://www.togitu.org>

ブログへは当法人のホームページのトップページからアクセスできます。

《ブログ入口  》という表示があります、をクリックすると開きます。

★ お知らせ

NPO 法人コミュニティ時津の会報は、会員でない方で当法人の行事にご参加いただいた方や関係先の方などにも配布しております。

会員でもないのに配布される、会費を払わないといけないのではないかという問い合わせがありますが、活動状況を知っていただくために、配布させていただいておりますので、気遣い無用です。

◎ 入会を希望される方へ

入会を希望される方は、電話、FAX、メール、または最寄りの会員に申し出てください。

「会員になると活動しなければいけないから」と、入会を躊躇 (ちゅうちょ) される方がおられますが、会員の中には「コミュニティ時津の活動の一助になれば」とか「何かいいことをやっているようなので」という動機で、ご入会いただいている方もおられます。

年会費 (1口) は、個人正会員 5,000円 個人賛助会員 2,000円
法人正会員 10,000円 法人賛助会員 5,000円 です。



発行元 (連絡先) : NPO 法人 コミュニティ時津
〒851-2102 長崎県西彼杵郡時津町浜田郷 110 番地 3
Tel/Fax : 095-882-2408 e-mail commutogi@ngs1.cncm.ne.jp
URL <http://www.togitu.org>